

教科(科目)	国語(言語文化)	単位数	2単位	学年(コース)	4学年 (国際科学科)
使用教科書	桐原書店『探求 言語文化』				
副教材等	桐原書店『探求 言語文化準拠予習復習ノート』、第一学習社『新訂七訂 新訂総合国語便覧』、 いいずな書店『改訂版 これてわかる明快古典文法』・『定着ノート』、 いいずな書店『つながる・まとまる古文単語 500PLUS』、 桐原書店『基礎から解釈へ 漢文必携 五訂版』・『チェックノート基本編』、 尚文出版『3ステップオリジナル問題集基礎古典』、ラーズ『進研WINSTEP古典1』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	①高い学力・幅広い教養・学び続ける姿勢を身に付け、グローバル(地域的・地球的)な視野から社会課題を多面的に発見・考察し、その解決に向けて挑戦・行動・発信する能力を育成します。 ②高い倫理観、他者を思いやる心、傾聴する姿勢、豊かなソーシャル・スキルを持った人物を育成します。 ③リーダーシップ・フォロワーシップを身に付け、地域社会・国際社会と協働する態度を育成します。
カリキュラム・ポリシー	①中高一貫教育を生かし、高い学力と学び続ける姿勢を身に付ける教育課程を編成するとともに、すべての教科・科目において「深い学び」を実現します。 ②読書、新聞・図書室の活用を奨励するとともに、体験活動を取り入れた教育課程により、幅広い教養を育みます。また、探究の過程を重視するとともに、最新の教育方法を積極的に活用します。 ③4技能をバランスよく育成する英語授業を実践するとともに、「生きた英語」を学習する機会としての海外研修やさまざまな発表活動に取り組みます。また、積極的に国際交流活動にも取り組んでいきます。 ④アイデンティティを形成しつつ地域理解を深め、地球的視野で自分なりの社会課題を発見し、科学的な手法を用いてその解決を目指す課題研究を6年間通じて実施します。 ⑤6年間一貫した方針による道徳や人権教育等を実施するとともに、生徒会活動、部活動、課外活動を通して、主体的・自律的に考え行動し、互いに支え、高め合いながら協働的に活動することを重視します。

2 学習目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

3 指導の重点

大学進学を想定している生徒が大多数を占めることから、 ① 基本的な言語事項について、表現方法や文脈を踏まえた活用ができる正確な習得を目指します。 ② 文章を的確に理解した上で、根拠を含む論理性を備えた思考力を身に付けることを目指します。 ③ 自分の思考を的確に表現し、積極的に他者とのコミュニケーションを図る態度を育てます。 ④ 発展的な知識教養にも触れ、自発的に見識を深める姿勢の習得を目指します。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。

5 評価方法

評価方法	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・小テスト、朝テスト ・レポートやワークシート などの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査 ・授業中の発言、発表や討論への取組の観察 ・レポートやワークシート、意見文などの内容の確認 ・振り返りシートの記述の分析 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・授業中の発言、発表や討論 への取組の観察 ・提出物 ・自己評価や相互評価の状況 などから、評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	古文入門	6 「C 読むこと」 古	古典と文化・古文と古語 児のそら寝 検非違使忠明のこと 大江山	・句読点に注意しながら、正しく音読する。 ・歴史的仮名遣いを理解する。 ・動詞や形容詞の活用など、古典文法の基礎 を理解する。 ・和歌の修辞技法を理解する。	6	授業観察 発問評価 課題点検 定期考査
5	漢文入門	2 「B 書くこと」 5 「C 読むこと」 古	漢文を学習するという こと／漢文の基礎 推敲 知音 塞翁馬	・訓点に従い、置き字や再読文字、返読文字の用 法に注意しながら、漢文を正しく書き下し文に改 める。 ・中国の寓話に特徴的な簡潔な表現を味わい、そ こから生まれた故事成語・成句等を正しく理解す る。 ・登場人物の考え方を理解し、その考え方を現代 の世界においてどのように生かすことができ るか、理解を深める。	7	授業観察 発問評価 課題点検 定期考査
6	随筆と 日記	6 「C 読むこと」 古	徒然草 「つれづれなる まに」 「ある人、弓射る ことを習ふに」 「花は盛りに」	・助動詞・助詞など、古典文法の基礎を理解す る。 ・観念性・抽象性の高い文章の内容を、構成や展 開に即して的確に捉える。 ・登場人物の行動や心情、または作者の考えなど を的確に捉え、各章段のおもしろさを理解する。	6	授業観察 発問評価 課題点検 定期考査
7	近代の 小説	8 「C 読むこと」 近	羅生門 (比較で深める) 羅城門の上層に登りて 死人を見る盗人のこと	・話の展開や主題の把握など、小説を読む基本 的な方法を習得する。 ・登場人物の心理や行動の意味を、表現に即して 的確に読み取る。 ・古典作品と近代以降の文章の関わりを理解し、 古典作品の翻案について理解を深める。	8	授業観察 発問評価 課題点検 定期考査
8	随筆と 日記	4 「B 書くこと」	土佐日記 「門出」「帰京」	・助動詞や助詞を中心に、文法事項への理解を深 め、古文の内容を正確に把握する力を養う。 ・日記に描かれた平安時代の旅の様子や登場する 人々の心情を理解する。	4	授業観察 発問評価 課題点検 定期考査
9	史伝	5 「C 読むこと」 古	鶏口牛後 鶏鳴狗盗 管鮑之交	・音読を繰り返して長文の漢文に慣れる。 ・登場人物の行動に注意しながら内容を正確に読 み取り、言葉の意味と由来を理解する。 ・日本古典文学との関連について理解を深める。	5	授業観察 発問評価 課題点検 定期考査
10	物語と 軍記	4 「C 読むこと」 古	竹取物語 「なよ竹のかぐや姫」 「かぐや姫の嘆き」 伊勢物語 「芥川」 「東下り」 「梓弓」	・助動詞や音便など文法事項への理解を深め、古 文の内容を正確に把握する力を養う。 ・各場面の描写から、具体的な情景や登場人物の 心情を読み取る。 ・敬語表現の概要について理解する。 ・和歌の修辞技法への理解を深める。 ・歌物語における和歌の役割を理解する。	4	授業観察 発問評価 課題点検 定期考査
11	伝統と 文化	4 「C 読むこと」 近	場所の記憶を 残す恋歌	・本文の論理の展開と構成に注意しながら、筆者 の主要な見解を的確に読み取る。 ・日本の文化的継承において和歌が果たした役割 について理解する。	4	授業観察 発問評価 課題点検 定期考査

12	和歌と俳諧	4 「C 読むこと」 固	古今和歌集 新古今和歌集	<ul style="list-style-type: none"> 和歌の修辞技法について理解を深める。 和歌の優れた表現に親しみ、古人の季節に対する繊細な感覚を理解する。 著名歌人や勅撰和歌集についての文学史的知識を持つ。 	8	授業観察 発問評価 課題点検 定期考査
	詩文	4 「C 読むこと」 固	五言絶句 七言絶句 五言律詩 七言律詩	<ul style="list-style-type: none"> 漢詩の簡潔な表現に込められた内容や情感を理解する。 それぞれの詩について、詩形・押韻・構成等の漢詩のきまりについて理解する。 杜甫、李白、王維、白居易など主要な詩人について、文学史的知識を持つ。 		授業観察 発問評価 課題点検 定期考査
1	文章	3 「C 読むこと」 固	雑説 愛蓮説	<ul style="list-style-type: none"> 唐宋八大家について学び、韓愈の文章にその特徴がどのように表れているか理解する。 論説文としての論旨の展開と、巧みな比喩（隠喩）表現を把握して内容を捉え、作者の主張を理解する 	6	授業観察 発問評価 課題点検 定期考査
	思想	3 「C 読むこと」 固	論語 孟子	<ul style="list-style-type: none"> 中国の思想を代表する儒家思想の概略をとらえる。 孔子や孟子の思想について理解するとともに、それらが現代においてどのような意味をもっているかを考える。 		授業観察 発問評価 課題点検 定期考査
2	近代の小説	7 「C 読むこと」 近	猿が島	<ul style="list-style-type: none"> 小説の読み方を習得する。 物語の展開や登場人物の心の動きに的確に読み取り、まとまった分量の小説を読み味わう。 語りの特徴や象徴的な表現の効果を捉える。 	7	授業観察 発問評価 課題点検
3	近代の短歌・俳句	5 「B 書くこと」	近代の短歌 八首 近代の俳句 八句	<ul style="list-style-type: none"> 繰り返し音読してリズムや叙情を味わい、短詩型文学固有の表現の特質を理解する。 自然や人間を見る目を養い、感性や想像力を豊かにする。 多様な表現技法を理解し、その効果を生かした作品を作る。 	5	授業観察 発問評価 課題点検 定期考査

計 70 時間 (50 分授業)

※ 領域ごとの授業時数合計

領域ごとの 授業時数合計	B「書くこと」 11 時間	C「読むこと」古典 40 時間	C「読むこと」近代以降の文章 19 時間
-----------------	------------------	--------------------	-------------------------

7 課題・提出物等

- 家庭学習用の課題を適宜指示します。
- 長期休業中の課題について別途指示します。

8 担当者からの一言

「言語文化」は、鉛筆を手に「読み、書き」、辞書を「引く」など、様々な活動を通して、知識だけでなく、論理的読解力や思考力、表現技法等を身につける科目です。様々な時代の文章を学ぶことで、いかに先人たちが悩み、思索し、感動しつつ生きる道を求めてきたかを知ることができるのです。しかし、古文・漢文などの近代以前の文章（＝古典）や、近代以降の詩や小説などは、すぐに読めるようになるものではありません。原文で何度も読み、音読して、調べて、理解しようと努力を続ける中で、ようやく少しずつ読めるようになります。自分が生まれ育った国の文化や言語を理解せずして、国際理解は始まりません。「言語文化」を学ぶことで、自分の基盤をしっかり固め、日本の文化について語れる人になってください。
(担当：阿部友)